

KURIKUMA



栗熊コミュニティ第Ⅲ期まちづくり計画
【令和4年度～令和8年度】

ふれあいと助け合いのまち 栗熊



栗熊コミュニティ



はじめに

栗熊コミュニティでは、まちづくり計画を平成 22 年に第Ⅰ期を「歴史を尊ぶまち栗熊」平成 29 年に第Ⅱ期を「安心して暮らせるまち栗熊」と、それぞれシンボルテーマとして策定してまいりました。住民の皆様の積極的なご協力のおかげで、前期の目的をかなりの部分達成することが出来ましたことを心より感謝申し上げます。

時代の変化の中で栗熊校区を取り巻く環境はより一層厳しいものになってきています。一番の問題は少子高齢化が丸亀市において島しょ部を除き最も顕著に進んできていることです。これらの課題を解決するために私たちに出来ることは、栗熊の魅力をより一層高め子育て世代の方々が移り住みたいと思うまちを作るとともに、高齢者に思いやりを持って接することのできるまちをめざすことです。

そこで今回第Ⅲ期まちづくり計画を策定するに当たり、広く住民のみなさまのご意見を伺うため令和 3 年 7～8 月にかけてアンケート調査を実施しました。87%以上の方が栗熊は住みやすく、子育てしやすい環境にあると答えられました。一方高齢者世帯を中心に将来への不安や、子どもたちの居場所に対するご不満もうかがい知ることが出来ました。

前期の反省とアンケート結果をもとに総務部会と策定委員会を通して、ここに第Ⅲ期まちづくり計画を策定しました。シンボルテーマは「ふれあいと助け合いのまち栗熊」に決定して 5 つの重点目標を採択し冊子にまとめることが出来ました。計画策定に当たって貴重なご意見を多く賜りました関係の皆様はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

栗熊コミュニティでは、今回策定した目標を実現するため、コミュニティ各部会・構成団体が事業計画をしっかりと立て、丸亀市と連携して努力していく所存です。住民の皆様のより一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和 4 年 4 月

栗熊コミュニティ

会 長 大 谷 秀 雄

栗熊コミュニティテーマソング

♪ みんなのクリックマン ♪

作詞 吉田富子 作曲 yumie

- 1、 やさしい風に誘われて いがぐりはじけてクリックマン
 元気にあいさつうれしいな みんな仲良く助け合い
 く〜りく〜りクリックマン (ほい) く〜りく〜りクリックマン (ほい)
 栗熊見守る クリックマン

- 2、 緑の山に誘われて 笑顔あふれるクリックマン
 道行く人にも声かける 力をあわせてパワー全開
 く〜りく〜りクリックマン (ほい) く〜りく〜りクリックマン (ほい)
 栗熊見守る クリックマン



- 3、明るい日差しに誘われて 今日もがんばるクリックマン
みんなが楽しい栗熊を アイデアいっぱい考える
く〜りく〜りクリックマン (ほい) く〜りく〜りクリックマン (ほい)
栗熊見守る クリックマン



第1章 栗熊校区の概要	1
1 まちの人口及び世帯数の推移	
2 高齢化率と出生数の推移	
3 主な産業から見た特徴	
4 教育・生活施設	
5 神社・仏閣・遺跡	
6 水利施設	
第2章 第Ⅱ期まちづくり計画の評価と課題	5
1 第Ⅱ期まちづくり重点目標についての評価	
2 まちづくりアンケートより	
3 課題の整理	
第3章 第Ⅲ期まちづくり計画	13
1 シンボルテーマ【ふれあいと助け合いのまち栗熊】	
2 5つの重点目標	
(1)健康で安心して暮らせるまち	
(2)心豊かな子どもが育つまち	
(3)みんなが助け合うまち	
(4)にぎわいと活力のあるまち	
(5)自然や歴史文化を大切にするまち	
3 重点目標に沿った事業計画	
参考資料	19
● 栗熊の歴史年表	
● 栗熊イラストマップ	
● 丸亀市・栗熊年齢別人口	
● 栗熊コミュニティ組織図	
● 栗熊コミュニティ各部の事業内容	
● 主な構成団体	
● 栗熊地区自主防災会組織図	
● 第Ⅲ期まちづくり計画策定委員	

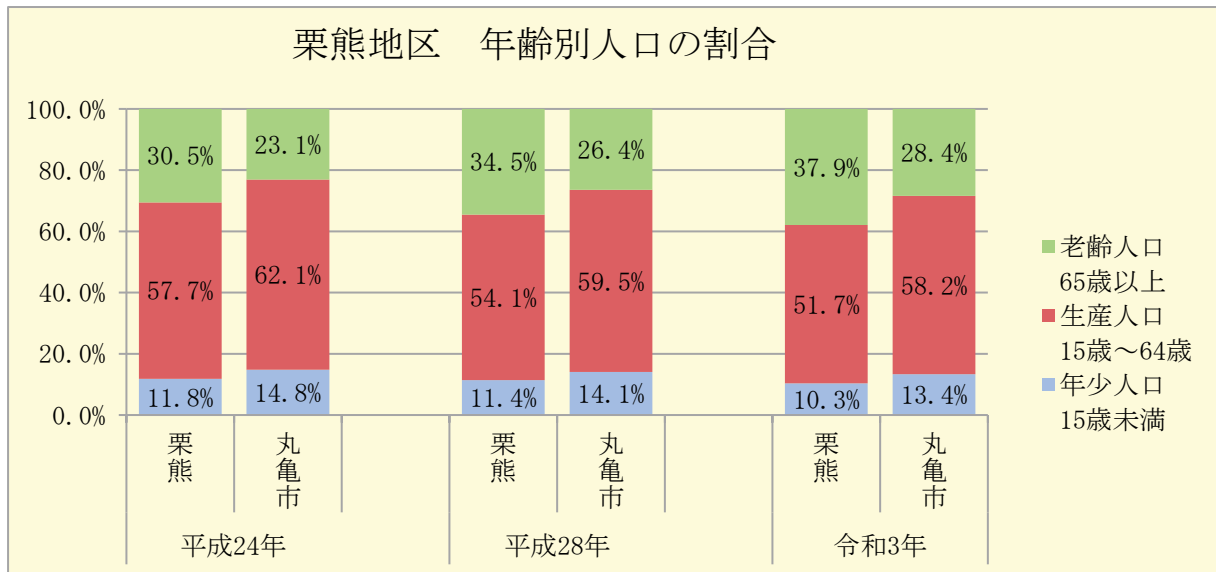
第1章 栗熊校区の概要

栗熊の地政学的特徴

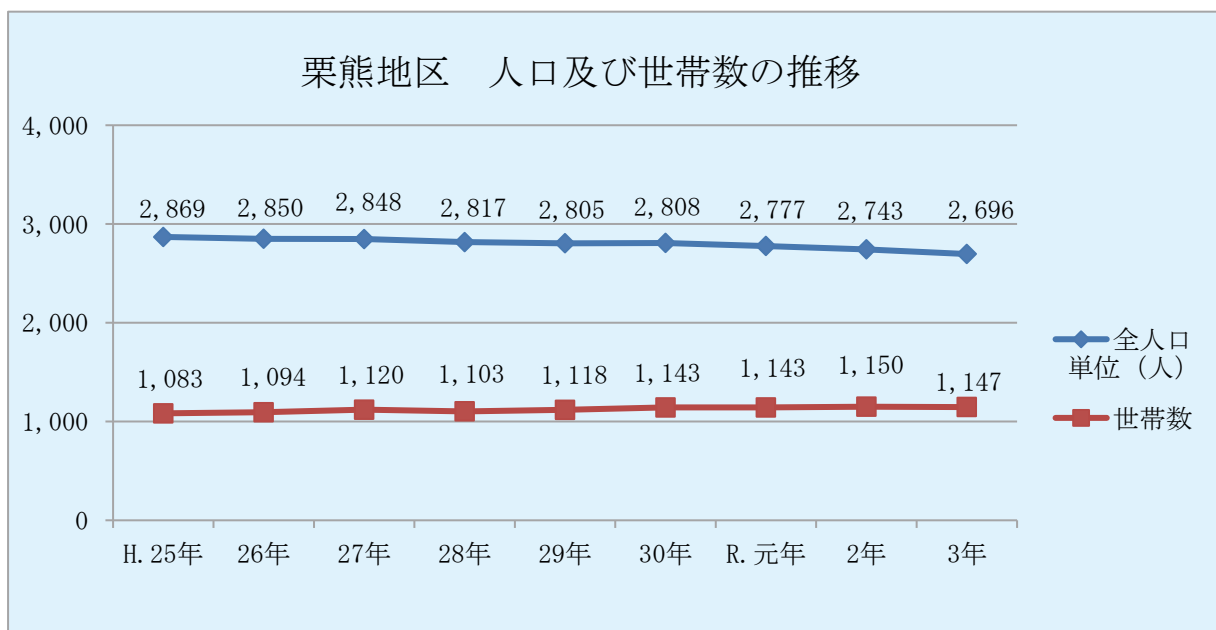
栗熊校区は、北はさぬき富士の異名を持つ飯野山を望み、南は大高見峰・猫山に抱かれた田園地帯で香川県の扇の要に位置します。

また、大雨強風等の自然災害を受けにくく、まちの中央には高松・琴平を結ぶ国道32号と琴電が走り交通の便も良い住みよいまちです。

1 まちの人口及び世帯数の推移

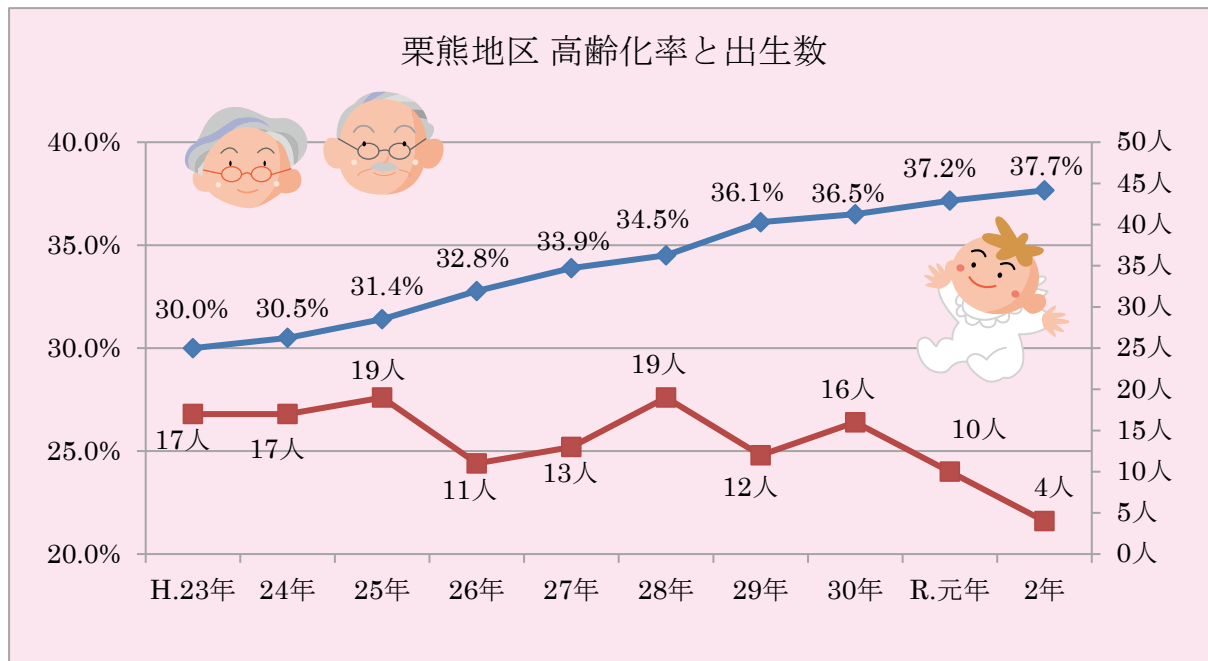


9年間の推移を見ると栗熊の少子高齢化は顕著です。特に高齢化は令和3年度の丸亀市平均よりも9.5ポイント高くなっており深刻な状況にあります。



人口減少は緩やかに進行していますが世帯数は横ばいかやや増加しています。これは核家族化を表しているといえます。

2 高齢化率と出生数の推移



このグラフを見ると高齢化以上に少子化の方が深刻です。

3 主な産業から見た特徴

農業…稲作の生産が大多数ですが、麦、菊やキャベツの栽培出荷量が多いです。

商業…商業施設としては大型量販店4店舗、コンビニエンスストア3店舗、レストランが4店舗、さぬきうどんの店が3店舗有り、小さいまちとしては商業が盛んです。

4 教育・生活施設

教育施設…綾歌中学校、栗熊小学校、栗熊保育所

警察…栗熊駐在所

消防…第14分団屯所

文化…綾歌総合文化会館アイレックス、綾歌図書館

市民生活…綾歌市民総合センター、栗熊コミュニティセンター、綾歌保健福祉センター
コムコムひろば、JA香川綾歌支店、栗熊郵便局、自治会集会場14か所
畦田キャンプ場、湯舟道、市営小公園3ヶ所

診療所…内科外科2クリニック、歯科2クリニック

福祉施設…綾歌荘、華、宝樹リノ、うぶすな園、さんさん荘

娯楽施設…ニューレオマワールド

5 神社・仏閣・遺跡

神 社…^{すみよし}住吉神社、^{うえ}宇閑神社、^{すわ}諏訪神社

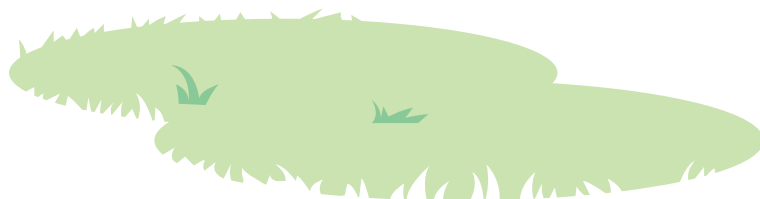
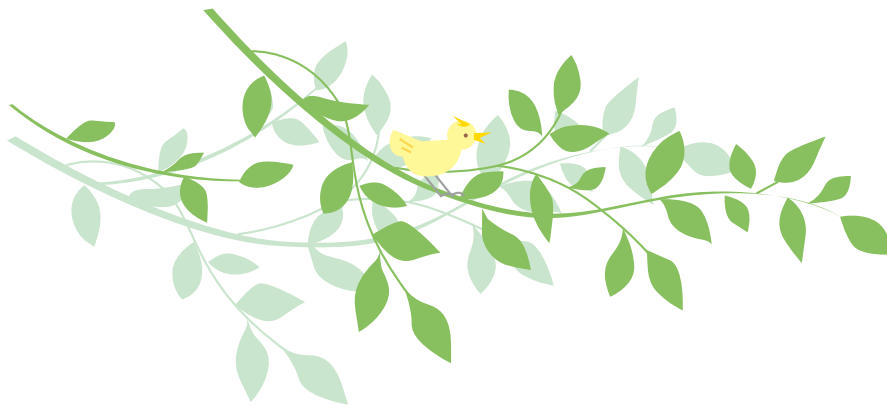
寺 院…^{せんりゅう}専立寺、^{ふくじょう}福成寺、^{しょうふく}勝福寺

遺 跡…快天山古墳（国指定史跡）、宇閑神社古墳（市指定史跡）、栗隈城跡（市指定史跡）
^{こんびら}金毘羅街道

6 水利施設

河 川……香川用水、東大束川、中大束川

主なため池…^{みずはし}水橋池、^{つつみ}堤池、^{じょうれんしも}定蓮下池、^{つばた}津畑池、^{じょうれんかみ}定蓮上池、^{どろ}土路池、^{はら}原池、^{くすり}薬池、^{くずかみ}葛神池



第2章 第Ⅱ期（平成29年～令和3年） まちづくりの評価と課題

全体評価と課題

「安心して暮らせるまち栗熊」をシンボルテーマとして、平成29年～令和3年にかけてまちづくりに取り組んでまいりました。

令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の流行で各種イベントが中止に追い込まれ、住民も不自由な生活を強いられました。

そんな中、各種団体の皆さんの頑張りで一定の成果を収めることが出来ましたが、課題もいくつか浮き彫りになりました。アンケートの結果も踏まえて第Ⅲ期まちづくりにつなげたいとおもいます。

① 第Ⅱ期まちづくり重点目標についての評価

①にぎわいと活力のあるまちづくり

コロナ禍で活力はむしろ後退した感がありますが、イベントのユーチューブ配信、コミュニティまつりに代わる作品展等、工夫を凝らした活動を続けることが出来ました。

又、野外での活動を中心とした、クリックマン見守り隊・栗っこ応援隊の活動はかなりの部分実行できました。PTA や事業所の方々が青パト巡回に参加してくれたことは大きかったです。

なお、防災訓練については、校区内を3分割して3回に分けた計画をし、内1地区の避難訓練が実施できました。



作品展



避難訓練



クリックマン見守り隊



栗っこ応援隊



青パト

②心豊かな人が育つまちづくり

あいさつ運動、園児と散策、伝承遊び、サマースクール、天体観測、夏の夕べ、親子登山、クリスマス会、稲や野菜の植え付け・収穫、実技関連の学習補助、標語ラリー等子どもたちにとって健やかな成長につながったと思います。



園児と散策



クリスマス会



バケツ稲の植え付け



収穫体験・芋掘り

③誰もが安心して暮らせる美しいまちづくり

自主防災会の立ち上げと各自治会の防災担当者決定などは、コロナ禍でこそ落ち着いてできたと思います。今後の課題は、より実践に即した訓練計画と実施を地区住民、学校と協力して行うことです。

美しいまちづくりには、花の植栽が欠かせないですが、コミュニティセンター敷地内でのプランター栽培にとどまりました。



花苗のプランター栽培

④健康で生きがいを感じるまちづくり

体操教室や健康講座は好評でしたが、料理教室の参加者が減少してきています。

園児と散策、伝承遊びなどを通じた介護予防事業は子どもたちにも好評でした。いきいきサロンの実施がコロナの影響もあり減少したのは残念です。



健康講座

⑤健康で元気あふれるまちづくり



歴史探訪ウオークは文化面のみならず健康面でも好評でした。

生涯学習クラブについては、コミュニティセンターが1年間休館していたのを境にクラブ数が激減し現在の登録数は11部です。そんな中、卓球教室が生涯学習クラブに移行し、自主運営による定例化を図ることが出来ました。他の教室・講座も種目によってできるものは同様に移行を考えたいです。栗熊コミュニティセンターは部屋数が多いので新しいクラブを創設して、より有効に活用すべく考えていきます。

センター1階のロビーを利用したコミュニティカフェは、コーヒーマーカーの操作が面倒なこともあって一部の者しか利用しておらず不評でした。令和4年度にはリニューアルして住民が集いやすくしていきます。

センター1階のロビーを利用したコミュニティカフェは、コーヒーマーカーの操作が面倒なこともあって一部の者しか利用しておらず不評でした。令和4年度にはリニューアルして住民が集いやすくしていきます。



コミュニティカフェ

⑥自然と歴史文化を尊ぶまちづくり

コミュニティ誌「さんさん快天」はコロナ禍でイベント等の記事が少なかった時も工夫し、毎月継続して発行することが出来ました。また、紙面を全面カラー化し見やすくなったのは好評でした。

毎月の天体観測や近隣のコミュニティと共催の夏休み天体観測を実施し、多くの子どもたちが宇宙や星を眺め楽しむことが出来ました。



② まちづくりアンケートより

実施期間：令和3年7月～8月

実施対象：自治会加入世帯および保育所・こども園・小学校・中学校の保護者世帯

回収状況：配布数 800 に対して回収数 348 で回収率は 43.5%。幅広い世代から意見を聞くことが出来たのと女性の回答者が多かったのが特徴です。

■ 栗熊の生活環境と住みやすさ

高松琴平電鉄沿線と並行に走る国道 32 号線を境に北部は平野部が多く居住区に適しており、南部は山間地丘陵地が多いです。南北東西とも車両による交通の便は良いですが、道幅の小さい道路が多いです。一部土砂災害警戒地域がありますが総じて災害に強いまちと言えます。アンケートでは 87%の方が栗熊は住みやすいと答え、83%がこれからも住み続けたいと答えています。

■ 高齢者支援

丸亀市内において最も高齢化が進んでいる地区で、高齢化率は 38%にも達しています。今後さらに進み一人住まいの高齢者や 80 歳以上の夫婦世帯が増加することが見込まれています。

アンケートからは、買い物・通院・災害時の要支援・自治会における役割免除等の要望が上位を占めています。お出かけ便は 85%の方が必要と答えていますが、高齢者に特定した実態調査が必要です。



■ 青少年健全育成と子育て支援



88%の大多数の方が栗熊は子育てし易い環境にあると考えています。子どもたちにとって必要なものとして公園等の遊び場を挙げています。これはみんなの声として行政に働きかけていく必要があります。

「クリックマン見守り隊」に比べ「栗っこ応援隊」の知名度はまだ低く 50%位です。両ボランティアとも、「ちょっとだけ参加してみませんか」運動が功を奏して少しずつ増えてきています。子育て世代においては参加意識はありますが、時間的余裕が無いのが現状です。

コミュニティセンター内にあつたらいいコーナーは①子どもたちの遊び部屋②学習読書の部屋③多目的ホールでの各種スポーツ等が上位を占めています。

■ いきいきと健康に暮らす

健康に暮らすためには地域や人との繋がりを大切に、無理なく体を動かすことが大切です。男女間・世代間で若干の違いがありますが必要と思われていることは、歩いて行ける場所での健康教室・健康体操などの普及、健康診断の普及啓発、ウォーキングなどをあげています。コミュニティカフェ

のスペースをコミュニティセンター内に設けて住民が気軽に利用できるようにすることも大切です。

コミュニティ活動に参加したことが無いのは30%で、70%の住民が「コミュニティまつり」「防災訓練」等で参加されています。参加しての満足度はほぼ50%でした。

■ 自治会加入促進と自治会活動の発展

加入率は72%位ですが親世帯祖父母世帯が加入しているのを含めると87%に達します。未加入世帯や、転入者が加入しやすい自治会環境に変えていく必要があります。自治会費や冠婚葬祭の行事等の見直し、転入者を受け入れる気質の改善等難題が多いです。

一方高齢化による脱退を防ぐため、役割や労役の免除などを各自治会で話し合い、思いやりの精神で改善して行く必要があります。

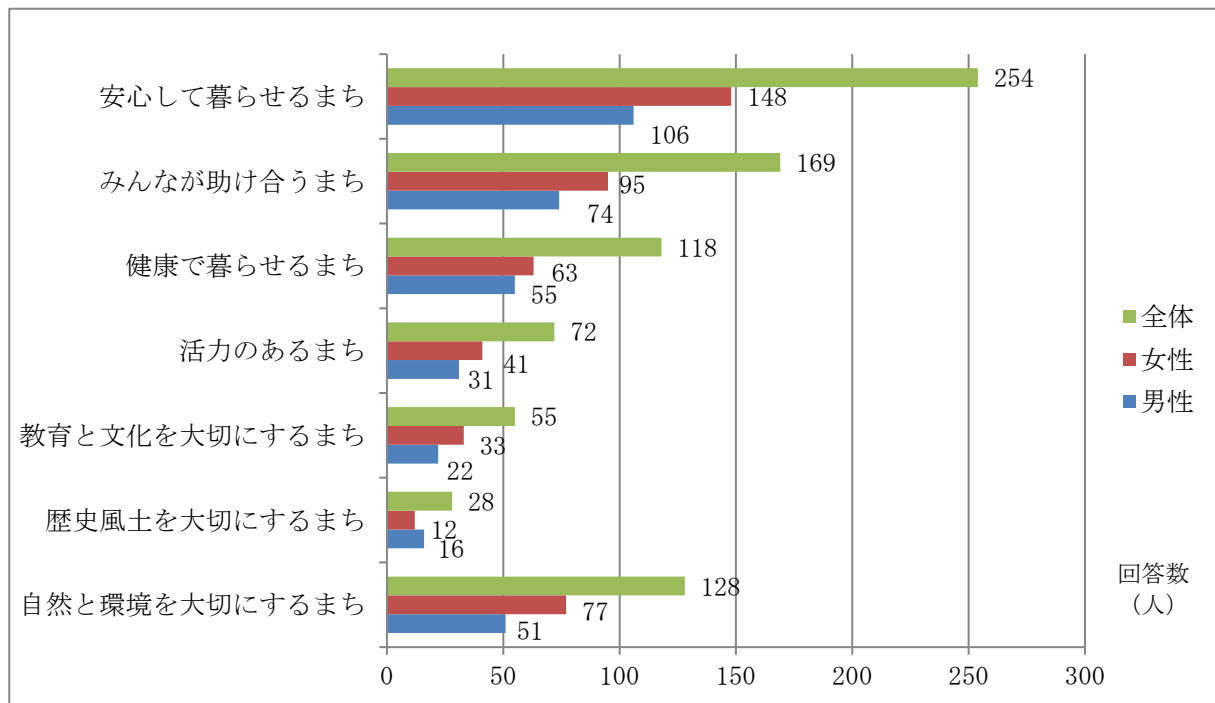
■ 文化・芸術

さんさん快天については、「たまに読む」を含めると90%の方が読んでいます。内容面に関してはやや満足を含めると、満足度は80%を超えています。

コミュニティまつりにおいては、多種団体の舞台発表や作品展示が好評でした。又、碧空会のうどんを始め各種バザーは地域住民のみならず遠方からも来客が有り盛況でした。

中国技芸団のような丸亀市からの提案型文化イベントも開催しました。

■ あなたが思うこれからの栗熊のイメージ



3 課題の整理

第Ⅲ期まちづくり計画においては住民一人一人が健康で心豊かに暮らせる、活力ある栗熊にしていかなばなりません。そこで前期の評価とアンケートの結果をもとに栗熊校区全体の課題を整理しました。

- 歩いていける場所での
体操教室や健康講座
- いきいきサロンの内容を
工夫
- コミュニティセンターに
集いと憩いのスペース
- 高齢者支援の具体化

- コミュニティセンターに子
どもたちが遊び学べる部屋
- 安心して遊べる公園
- 三世代がもっと交流できる
イベント

これからもほくを

活用してね！

- 転入者が加入しやすい
自治会
- 高齢者の役割・労役を免除
- 情報発信の多様化
- まちづくりの人材発掘
- まちの歴史・文化の学習

- 地域を縮小しての防災訓練
- 用水や道路等、危険個所の
チェック
- 環境美化
- 花の植栽場所を増やす
- 空き家空き地の情報提供



第3章 第Ⅳ期まちづくり計画

ふれあいと助け合いのまち栗熊

わがまち栗熊にも少子高齢化や核家族化が徐々に進んでおり、これまでの家庭や地域社会における生活のあり様が大きく変わろうとしています。

こういう変化の大きな時代であるからこそ、だれもが安心して暮らすためには「お互いにふれあい助け合う」風土を育んでいく必要があります。

そこで、これからの5年間は「ふれあいと助け合いのまち栗熊」をシンボルテーマとして掲げてまちづくりに取り組みます。

1 シンボルテーマ

* ふれあいと助け合いのまち栗熊 *

前期のまちづくり計画では「安心して暮らせるまち栗熊」をシンボルテーマとして設定し、5年間にわたって各施策に取り組んできました。この結果、今回の住民アンケートでは栗熊は住みやすいと答えた方が87%、これからも住みたいと答えた方が83%にもおよび、これまでのまちづくりは着実に成果をあげてきました。

しかしながら、わがまち栗熊にも他地区と同様に少子高齢化や核家族化の進行とともに、例えば自治会や神社氏子離れにみられるように連帯意識の希薄化や価値観の多様化が徐々に進んでいることから、安心して暮らすためには「お互いにふれあい助け合う」風土を育む必要があります。

そこで、これからの5年間は「ふれあいと助け合いのまち栗熊」をシンボルテーマとして設定し、住民アンケートで栗熊の目指すまちづくりとして要望が多かった次の5つを重点目標として設定します。

これらを達成するために、以下の事業計画を策定して、栗熊コミュニティセンターを地域の皆さんに広く開放し、その活動拠点としていきます。

2 5つの重点目標

- (1) 健康で安心して暮らせるまち
- (2) 心豊かな子どもが育つまち
- (3) みんなが助け合うまち
- (4) にぎわいと活力のあるまち
- (5) 自然や歴史文化を大切にするまち

3 重点目標に沿った事業計画

(1) 健康で安心して暮らせるまち

健康で安心して一人一人がいきいきと暮らせるまちづくりを目指します。

①介護予防



高齢者の介護予防のための健康講座、体操教室、料理教室を開催します。開催場所については高齢者が歩いて行ける場所の確保を検討します。

また、生きがいや健康づくりのため子ども達とふれあえるイベントを検討し、愛育班などと連携して企画実施します。

各老人クラブの要望を取り入れ、いきいきサロンなどを応援します。

②子ども達の見守り

クリックマン見守り隊による付添下校、青パト巡回、農作業時等のながら見守りで子ども達の交通安全、防犯およびその啓発活動を継続実施します。また、今後、見守り対象の拡大など活動の範囲とスキルの向上に努めます。



事業名	事業内容	実施時期等	想定される関係部署
① 介護予防	健康講座、体操教室、料理教室	適宜	保健福祉部 愛育班 老社会 連合自治会 小学校 保育所 食生活改善推進協議会 社会福祉協議会 市
	伝承遊び	年1回	
	園児と散策	年2回	
	いきいきサロン等の応援	適宜	各部・福祉協力員・民生委員等
② 子ども達の見守り	付添下校や青パト巡回、農作業をしながらの見守り	登校日	見守り部 小学校 同PTA 地区内協力事業所 民生・児童委員 警察

(2) 心豊かな子どもが育つまち

地域で子どもを育てる環境を整え心豊かな子どもが育つまちづくりを目指します。

① 学校支援

地域、保護者、学校が協働で子ども達の成育に携わっていきます。

② 親子活動

夏休みなどの長期休み中に親子活動イベントの開催を検討します。

③ 親世代の学習会

親世代を対象とした学習会や講演会の開催を検討します。



④ 農作物栽培体験

小学校でのさつまいもやバケツを使った稲の栽培体験を JA と一緒に行います。また、近隣の農地を借りての野菜作り体験も実施できるよう検討します。

⑤ スポーツイベント

子どもが興味を持ったり情操教育に繋がったりする自然体験型のスポーツイベントを開催します。

⑥ あいさつ運動

保育所・小学校・中学校の正門で、登校する子ども達にあいさつの声かけ運動を行います。



事業名	事業内容	実施時期等	想定される関係部署
① 学校支援	保・小・中と連携し学校行事の支援	適宜	育成部 保育所 小学校 中学校
	運動会、夏の夕べ	5月、7月	
	環境整備、学習支援、サマー・スクール	適宜	栗っこ応援隊 環境安全部 体育部

②	親子活動	親子活動イベント、親子登山、 絵画教室	3月、8月	育成部 体育部 NPO あやうた
		親子クリスマス会	12月	保健福祉部 保育所 小学校
③	親世代の学習会	親世代学習会	検討	育成部
④	農作物栽培体験	さつまいも栽培体験	5月、10月	環境安全部 JA 小学校
		バケツを使った稲の栽培体験	6月、10月	
		近隣の農地を借りての野菜栽培体験	検討	
⑤	スポーツイベント	自然体験型のスポーツイベント	適宜	体育部 見守り部 育成部
⑥	あいさつ運動	登校時のあいさつの声かけ運動	毎月1回	各部 保育所 小学校 中学校

(3) みんなが助け合うまち

みんなが助け合い安心して暮らせるまちづくりを目指します。

①自主防災活動

災害による被害の防止と軽減を図るため、防災知識の普及や啓発、防災訓練、避難所運営訓練等を自治会や学校等と協力して効果的に実施します。



②自治会の振興

連合自治会と協力して自治会活動の活性化、自治会加入促進、退会防止に取り組みます。

③助け合い事業



福祉関係者や自治会と連携して高齢者等移動支援サービスやちょっとした困りごと等の生活支援についての取り組みを検討します。また、地域全体で高齢者の見守り活動を行うとともに生活支援 ボランティアの立ち上げについても検討します。

④子育て支援

保健師、愛育班、母子保健推進員などの協力により、子育て中の育児についての悩みや不安の解消、親の交流を図るなど支援をします。



事業名	事業内容	実施時期等	想定される関係部署
①	講演会等による防災知識の普及や啓発	適宜	総務部 自主防災会 連合自治会 消防団 警察 小学校 市
	防災訓練、避難所運営訓練	適宜	
②	自治会活動の活性化	適宜	総務部 連合自治会 市
	自治会への加入促進や退会防止	適宜	

③	助け合い事業	移動支援サービス	検討	総務部 保健福祉部 連合自治会 民生・児童委員 福祉ママ 福祉協力員 社会福祉協議会 市
		ちょっとした困りごと等生活支援	検討	
		高齢者等の見守り活動	検討	
		友愛訪問（要支援者宅を訪問）	年3回	
④	子育て支援	育児についての悩みや不安の解消 子育て中の親の交流 （すくすく綾歌っ子）	月1～2回	総務部 愛育班 母子保健推進員 民生・児童委員 市

（４）にぎわいと活力のあるまち

住民がふれあう交流の場をつくり、地域のにぎわいと活力のあるまちづくりを目指します。

①コミュニティまつりの開催

自治会や各種団体からも実行委員を選出するなど連携し、より多くの住民が参加するふれあいと交流の場となるコミュニティまつりを開催します。

②地区内外への情報の発信

コミュニティ誌やホームページ等により、地域の情報やコミュニティの活動内容等を広く発信します。また、Facebook や LINE 公式アカウントの有効的活用についても検討します。



③他団体や近隣のコミュニティと連携したコミュニティ活動

- ・コミュニティ構成団体との連携により活動の活性化を図る。（各事業の見直し）
- ・連合自治会コミュニティ構成団体や近隣のコミュニティとの情報や意見の交換会を行い、必要に応じて共同でイベントを開催するなど連携したコミュニティ活動を検討します。

④交流スペースの設置

住民がふれあう交流の場として、コミュニティセンター内に交流スペースの設置を検討します。

⑤生涯学習等の推進

- ・生涯学習クラブの活動の紹介や成果を発表する機会を設けるなどの支援を行います。
- ・住民の関心の高い出前講座、講演会等の開催を検討します。

⑥スポーツを通じての健康づくりやにぎわいづくり

住民の健康づくりやにぎわいづくりに寄与するため、ウォークラリーやスポーツイベントを実施します。またコミュニティ運動会の開催について企画検討します。



事業名	事業内容	実施時期等	想定される関係部署	
①	コミュニティまつり	住民のふれあいと交流の場となるコミュニティまつりを開催	11月	コミュニティまつり実行委員会 連合自治会 構成団体 学校
②	地区内外への情報の発信	コミュニティ誌「さんさん快天」発行	毎月	文化部
		ホームページ等の内容・更新等の管理	適宜	総務部

③	他団体等と連携したコミュニティ活動	コミュニティ構成団体や近隣コミュニティと連携によるイベントの共同開催	適宜	各部 構成団体 近隣のコミュニティ
④	交流スペースの設置	コミュニティセンター内に住民がふれあう交流の場を設置	4年度から	総務部 構成団体
⑤	生涯学習等の推進	生涯学習団体の紹介や発表等の支援	適宜	総務部 文化部 自主防災会 各部
		関心の高い出前講座、講演会等の開催	適宜	
⑥	スポーツを通じた健康づくりやにぎわいづくり	ウォークラリー	検討	体育部 育成部 見守り部市
		スポーツイベント	検討	
		コミュニティ運動会	検討	体育部 体育協会 連合自治会 老社会 学校関係者

(5) 自然や歴史文化を大切にすまち

地域の自然や歴史文化を活かし、愛着のもてるふるさとのまちづくりを目指します。

①環境美化

地区内のゴミステーションの見回りや一斉清掃を継続します。また、小学校やコミュニティセンター周辺等の花の植替えを行います。

②天体観測

住民を対象とした天体観測とその説明会を毎月開催します。

③歴史文化講演会

快天山古墳など地域の文化財や歴史について構成団体等と連携して講演会や臨地研修会の開催を検討します。



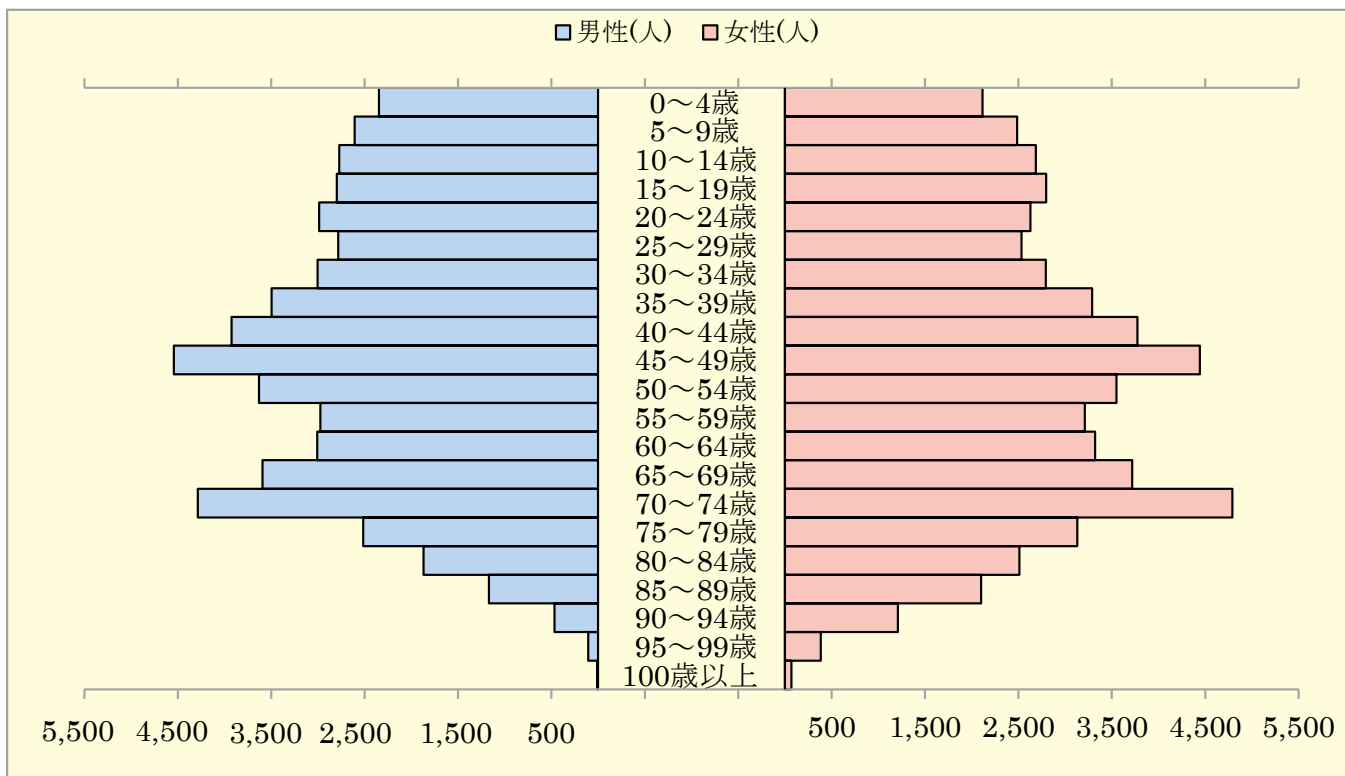
事業名	事業内容	実施時期等	想定される関係部署
① 環境美化	ゴミステーションの見回り	年2回	環境安全部
	地区内の一斉清掃	年2回	
	小学校やコミュニティセンター周辺等の花植替え	適宜	
② 天体観測	住民を対象とした天体観測とその説明会	毎月	文化部
③ 歴史文化講演会	地域の文化財や歴史についての講演会や臨地研修会	検討	文化部 快天山古墳を守る会

参 考 資 料

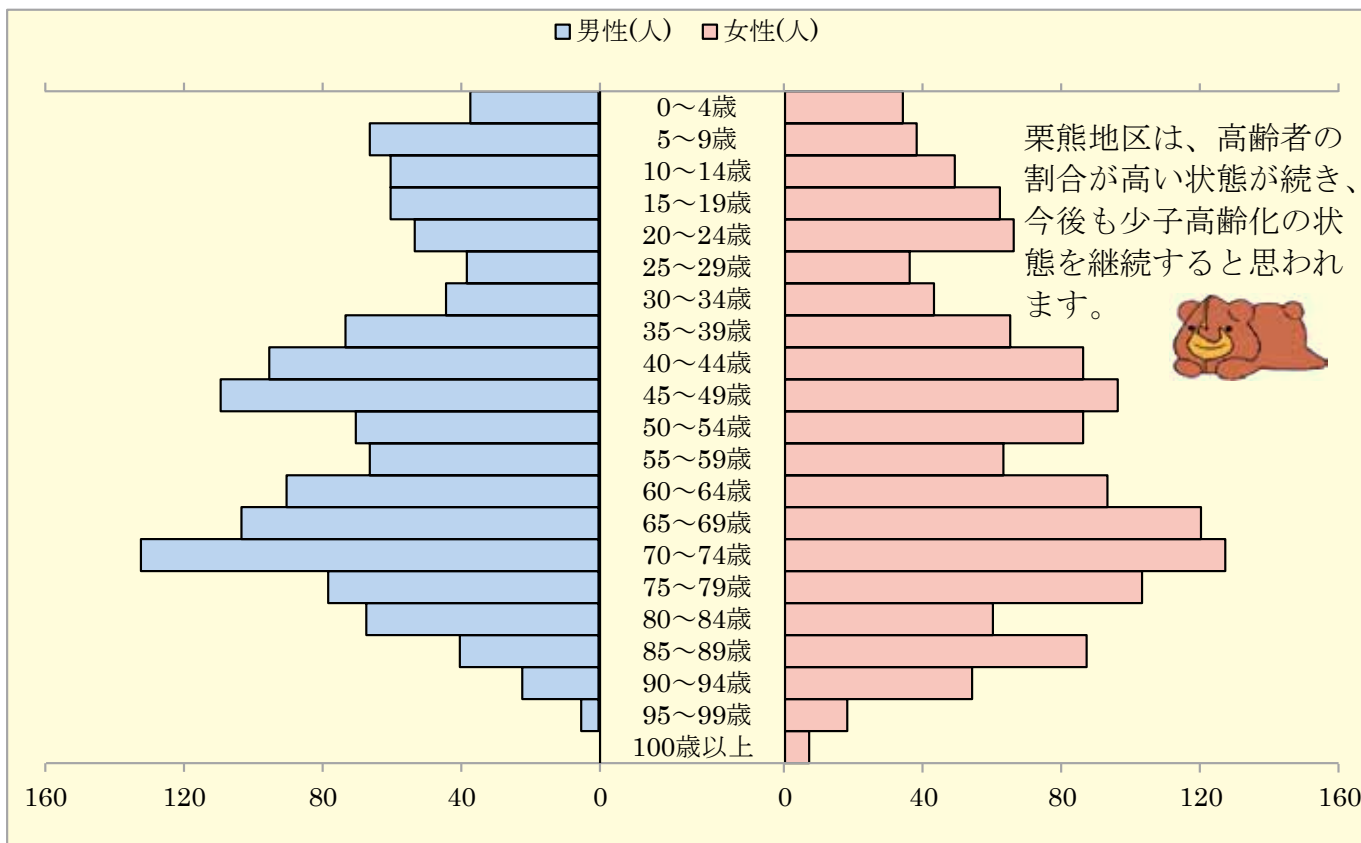
栗熊の歴史年表

西 暦	年 号	郷土の出来事
300 年代中頃		快天山古墳が造られる
640 年頃		讃岐国は 11 郡に分けられ鵜足郡が置かれる
		この頃栗隈郷または隈玉郷と呼ばれる（現在の栗熊・富熊）
	江戸前期	栗熊村と呼ばれる（現在の栗熊・富熊）
1872	明治 5 年	栗熊東村に隈玉小学校（中村学校）栗熊西村に成満小学校を創設
1890	明治 23 年	栗熊東村、栗熊西村が合併して栗熊村となる
1899	明治 32 年	郡制公布、鵜足郡から綾歌郡になる
1918	大正 7 年	スペインかぜパンデミック始まる（～ 1920 年）
1927	昭和 2 年	琴平電気鉄道が高松～琴平間に開通
1946	昭和 21 年	南海地震発生 被害甚大
1948	昭和 23 年	栗熊村・富熊村学校組合立久栄中学校設立
		栗熊村と富熊村が合併して久万玉村となる
1951	昭和 26 年	久栄中学校は久万玉中学校、栗熊小学校は久万玉南部小学校と改称
1959	昭和 34 年	久万玉村と岡田村が合併して綾歌町となる
1960	昭和 35 年	有線放送の業務が開始される
1963	昭和 38 年	岡田・久万玉中学校が統合され、綾歌中学校となる
		綾歌郡老人ホーム開設（現綾歌荘）
1966	昭和 41 年	綾歌中学校校舎完成
1968	昭和 43 年	香川用水幹線水路工事着工
1969	昭和 44 年	綾歌中学校・栗熊小学校屋内運動場完成、綾歌町民プール完成
1973	昭和 48 年	栗熊小学校校舎完成
1974	昭和 49 年	香川用水幹線水路完成
1976	昭和 51 年	栗熊保育所園舎完成
1978	昭和 53 年	綾歌町役場新庁舎完成、農村環境改善センター開館
1988	昭和 63 年	瀬戸大橋開通
		湯舟道完成
1991	平成 3 年	綾歌「レオマワールド」開園
1996	平成 8 年	綾歌総合文化会館「アイレックス」完成
2002	平成 14 年	保健福祉センター完成
2004	平成 16 年	快天山古墳が国史跡に指定
2005	平成 17 年	丸亀市・飯山町と合併し、新「丸亀市」誕生 栗熊コミュニティ設立
2010	平成 22 年	国道 32 号綾歌町内 4 車線化
2018	平成 30 年	綾歌市民総合センター・栗熊コミュニティセンター耐震化工事完成
		綾歌中学校・栗熊小学校プール改築工事完成
2020	令和 2 年	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全国緊急事態宣言発令

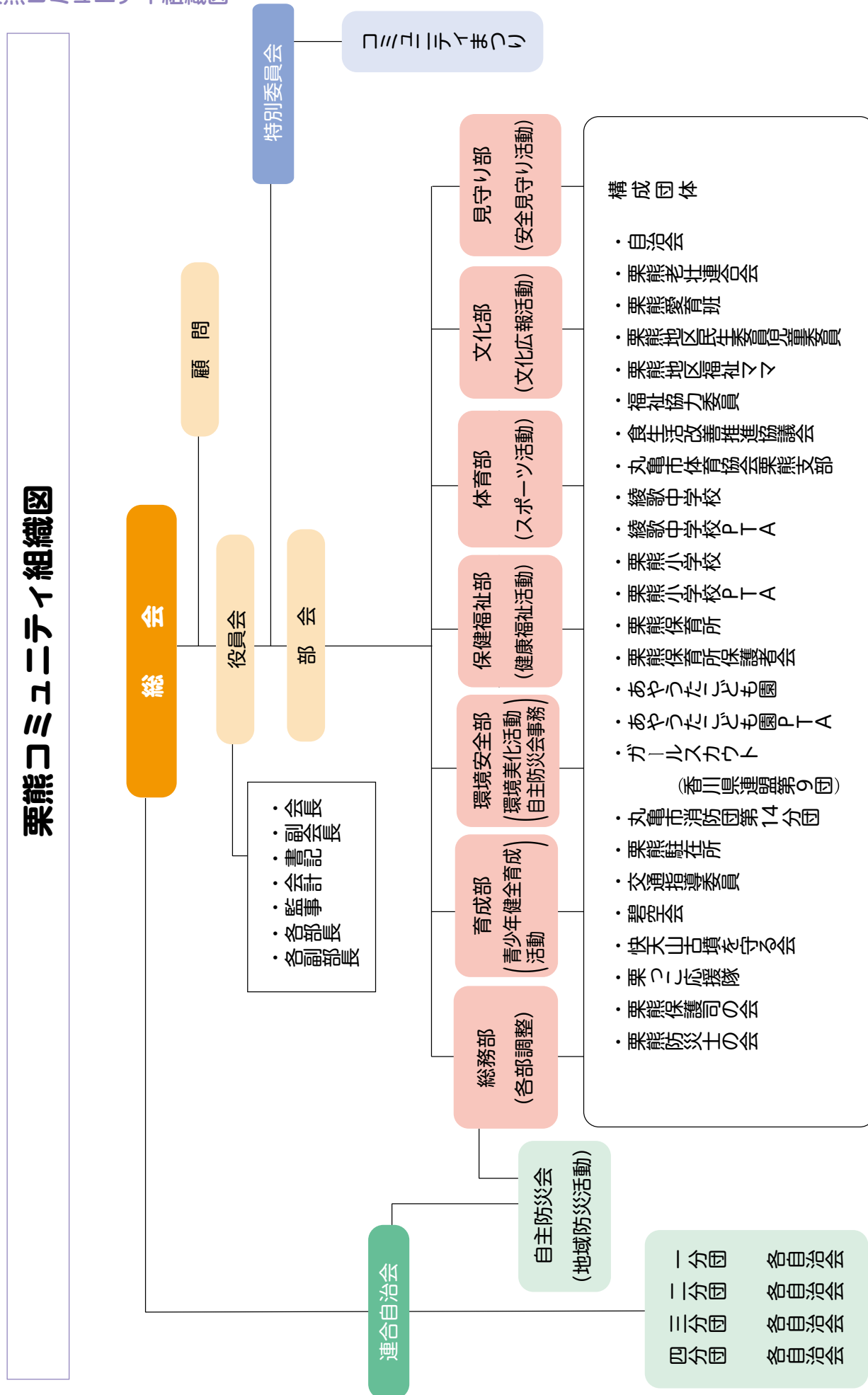
丸亀市年齢別人口（令和3年）



栗熊地区年齢別人口（令和3年）



栗熊コミュニティ組織図



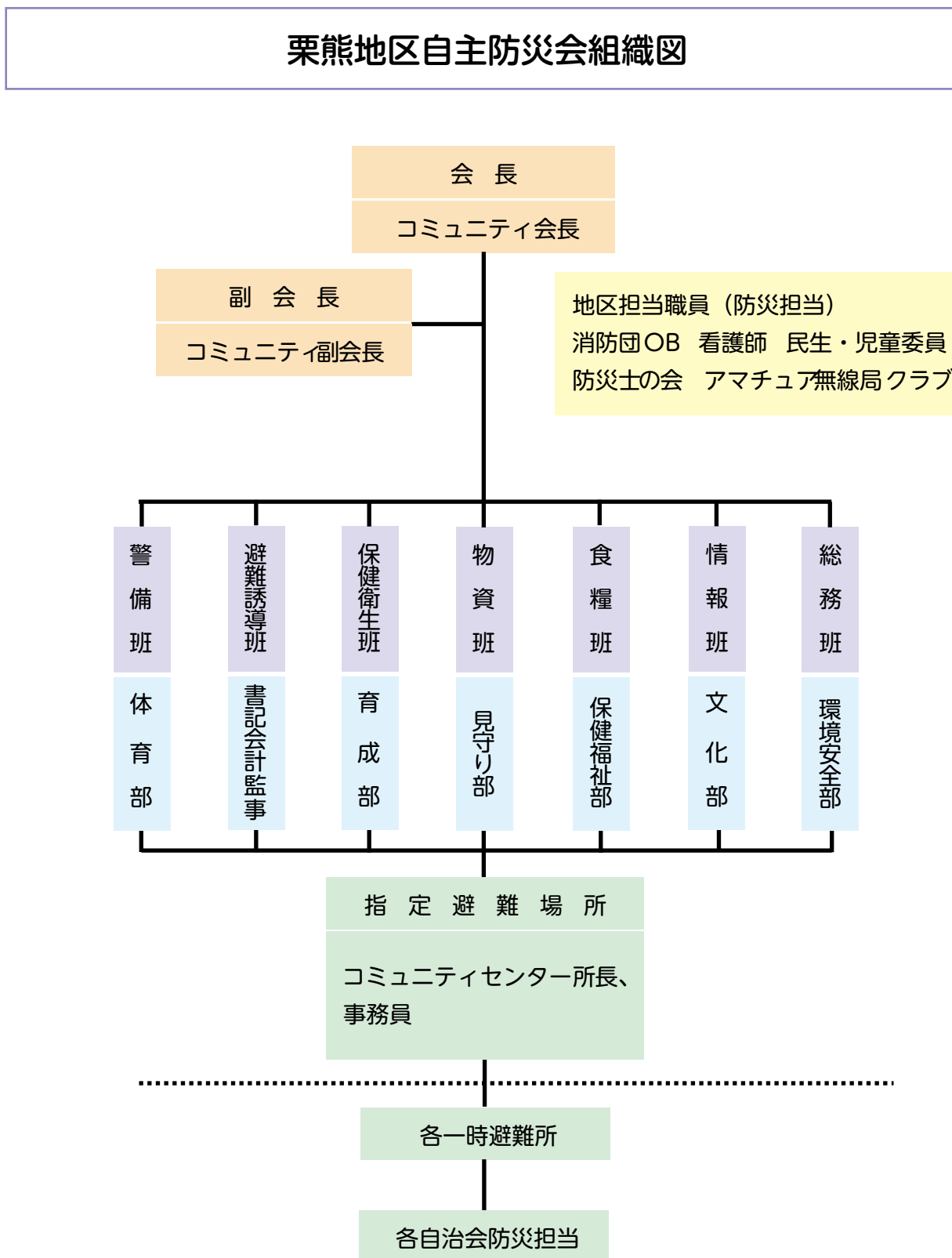
栗熊コミュニティ各部の事業内容

団体名	部員数	主な活動内容	今後想定される事業
総務部	10名	各部の調整 ●役員会、実行委員会の運営 ●ホームページ等の管理	自主防災活動 自治会の振興 助け合い事業 他団体等と連携した コミュニティ活動 交流スペースの設置
育成部	20名	青少年健全育成 ●栗保・栗小・綾中と連携し学校行事の支援 ●親子活動イベント	親世代学習会
環境安全部	15名	地域の生活環境の保全と環境美化、 自主防災事務 ●花の植え替え ●栗小 さつまいも、バケツ稲の栽培 ●ごみステーション巡回	近隣の農地を借りての 野菜栽培体験
保健福祉部	17名	地域福祉、介護予防 ●体操教室、料理教室、健康講座 ●伝承遊び・園児と散策 ●親子イベント	助け合い事業
体育部	10名	生涯スポーツ推進、健康増進 ●校区スポーツ大会 ●ふるさと探訪ウォーク、スタンプラリー	コミュニティ運動会
文化部	11名	地域の情報を地域内外に発信 ●コミュニティ誌「さんさん快天」の発行 ●天体観測	生涯学習等の推進 地域文化の振興
見守り部	23名	栗小の子ども達の安全・安心な下校の見守り ●付添下校・立哨による安全指導 ●農作業等による「ながら見守り」 ●青パト巡回による危険個所チェック ●防犯啓発パレード、意見交換会 ●新入生対面式	
実行委員会 その他		●コミュニティまつり実行委員会 ●防災訓練 ●コミュニティ総会・連合自治会総会 ●保育所、小学校、中学校におけるあいさつ 運動	クリックマンマスコット とシールの作成及び活用

主な構成団体

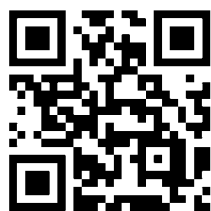
団体名	構成員	主な活動内容
栗熊老壮連合会	173名	総会、研修旅行、交通事故防止教室等の実施及び作品展への出展等ねんりん丸亀の行事に参加
栗熊愛育班	11名	地区の住民を対象に「料理教室」「健康教室」「体操教室」を開催
栗熊地区民生委員児童委員	5名	児童から高齢者までの見守り活動、地域住民の心配ごと相談等を実施
栗熊地区福祉ママ	5名	チャリティーバザー及び寝たきり高齢者宅への友愛訪問
福祉協力委員	43名	民生委員児童委員や福祉ママと協力して地域住民の見守り・支援活動
食生活改善推進協議会	21名	「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、食を通じた健康づくりのボランティア活動
丸亀市体育協会栗熊支部	9名	地区住民のスポーツの振興を図り、住民の体力増進と健全な精神を養うことを目的に活動
丸亀市消防団第14分団	21名	栗熊地区の防火・防災活動、火災等災害発生時には市消防署と連携し消火・救助活動等を実施
栗っこ応援隊	50名	学校・家庭・地域が協働で子供たちの健やかな成長の為、環境整備や学習補助等に取り組む
栗熊防災士の会	8名	地域防災力向上につながる活動。自主防災会の訓練への支援協力及び福祉施設と連携した訓練実施
碧空会	21名	地域の行事や老人施設等のイベントで来場者へ手づくりの「うどん」を提供
快天山古墳を守る会	89名	国指定の快天山古墳等の地域の歴史や文化を守り伝え、史跡等に関する講演会や臨地研修等を開催
ガールスカウト香川県連盟 第9団	8名	野外活動、クラフト、募金活動、集会などを通じて、少女・女性が責任ある世界市民となれるよう支援

栗熊地区自主防災会組織図



第Ⅲ期まちづくり計画策定委員名簿

	役職名	氏名	所属
1	委員長	大谷 秀雄	栗熊コミュニティ会長 / 栗熊校区連合自治会長
2	副委員長	沼田 正志	栗熊コミュニティ副会長
3	//	十河 佳代子	栗熊コミュニティ副会長 / 民生児童委員
4	委員	松岡 繁	栗熊コミュニティ前会長 / 丸亀市農業委員会会長
5	//	山本 清秀	栗熊校区連合自治会副会長
6	//	熊谷 勝子	栗熊校区連合自治会副会長
7	//	大西 賢志	丸亀市立綾歌中学校長
8	//	大西 光宏	丸亀市立栗熊小学校長
9	//	逸見 美智子	丸亀市立あやうたこども園長
10	//	入屋 光恵	丸亀市立栗熊保育所長
11	//	喜多 壽子	栗熊コミュニティ保健福祉部長 / 丸亀市民生・児童委員連合会副会長
12	//	田嶋 紀彦	栗熊コミュニティ育成部長
13	//	林田 茂	栗熊コミュニティ環境安全部長
14	//	十河 靖典	栗熊コミュニティ体育部長 / 丸亀市 PTA 連絡協議会長
15	//	苧側 正明	栗熊コミュニティ文化部長 / 民生児童委員
16	//	山本 寛治	栗熊コミュニティ見守り部長
17	//	廣田 勝也	丸亀市議会議員
18	//	岡原 義文	栗熊老壮連合会代表
19	//	岩崎 佳代子	栗熊地区福祉ママ代表
20	//	坂東 洋子	栗熊愛育班代表
21	//	十河 秀樹	丸亀市立栗熊小学校 PTA 会長
22	//	松下 晃三	丸亀市立栗熊保育所保護者会長
23	//	丸尾 泰久	栗熊コミュニティ地域担当職員（まちづくり）
24	//	平本 侑馬	栗熊コミュニティ地域担当職員（まちづくり）
25	//	巨海 明男	栗熊コミュニティ地域担当職員（防災）
26	//	山本 藍	栗熊コミュニティ地域担当職員（保健）
27	事務局	熊谷 哲朗	栗熊コミュニティ所長
28	//	岩崎 美恵子	栗熊コミュニティ職員



ホームページ

<https://kurikuma-comm.main.jp/>



LINE 公式アカウント



facebook



令和4年4月1日発行

編集 第Ⅲ期まちづくり計画策定委員会

発行 栗熊コミュニティ

〒761-2405 香川県丸亀市綾歌町栗熊西1638-1

TEL 0877-86-6605 FAX 0877-86-2252

E-mail : kurikuma-center@md.pikara.ne.jp



栗熊コミュニティ
第Ⅲ期まちづくり計画